

東京廿一日講 登拝百周年記念石碑建立

去る八月二十三日、高尾山の講中の一つである、「東京廿一日講」の皆様約六十名が来山されました。登拝百周年を記念して四天王門脇に新たに講碑を建立され、大山貫首御導師のもと、開眼法要が行われました。

東京廿一日講の五代目講元は稲越眞さんで、昭和四十八年に先代より講元を引き継がれました。お話を伺いますと、「講中を立ち上げた由来は伝わってはおりませんが、昭和初期には当時の講元が鋳物業を営んでおり、その会社の従業員を連れてお参りにきておったそうです。」と話されておりました。講員の皆様は、法要後には精進料理を召し上がり、当山の書院を見学して、その後帰宅の途につかれました。



大山御貫首と講中の皆様による記念撮影



建立された石碑に合掌する稲越講元



高尾山

四季の草花

90

ギンバイソウ 銀梅草

ユキノシタ科・ギンバイソウ属



梅の花に似て、白い花を銀色に見立てて、この名前があります。梅の花に似た白色の両性花と、三枚の花弁のように見える萼を持つ装飾花があります。蕾が出来てから開花するまで、意外と長い期間がかかる花の一つです。山地や沢沿いに湿った所に生える高さ四十〜八十センチの多年草です。葉は対生し、葉の先が二つに裂けた独特の形をし、葉緑は鋸歯になっています。(花が咲いていなくても、葉を見るだけでギンバイソウだと解ります。) 高尾山系で咲く場所は少なく、二ヶ所で見られます。

(撮影・文 中村 毅人)

ネパール被災地より 子供達が訪れる

二〇一五年四月二十五日、巨大地震に襲われたネパールでは、人命や建物に甚大なる被害を受け、今なお多くの人達が避難生活を強いられております。そのような生活を続ける子供達を元気づけようと、有志の日本人ボランティアにより、ネパールの首都カトマンズから八歳〜十五歳(日本では小学校に相当)の生徒と、現地の先生合わせて十四名を招待し、新潟や都内などを巡り、帰国前の八月五日に高尾山へ来山されました。僧侶の案内で、多くの蝉が鳴く真夏の高尾山の境内を見学し、初めての御護摩供修行を体験され、子供達は元気に帰国の途に就かれました。



境内案内を受けるネパールの子供達

厄年を過ぎた 御信徒の皆様へ

六十才の厄年を過ぎたなら

一年・二年を

七十才を過ぎたなら

暑さ、寒さを

八十才を過ぎたなら

春夏秋冬を

九十才を過ぎたなら

一日・二日を

気を付けられ

日々を大切に

圓滿にお暮し下さい。

当山では皆様の

(身体健全 寿命長久)を祈念して

福壽圓滿の

お護摩を

お申し受け致しております。

喜び運ぶ「音の響き」

友納あけみ

先日、テレビでジャズシンガーの旗照夫さんが、「ずっと歌っていて、八十歳を過ぎて、初めて音の響かせ方がわかって、感動する!」とおっしゃっていました。音楽はいつも喜びを運んでくれます。時がゆけば当たり前のことで、肉体もたぶん脳も老いていきます。でも音をずっと探している、いつか新しい発見や閃きみたいなものが訪れてくれて、あーそういうことか!と、本当に感動するほど嬉しくなる瞬間があります。それは多分、今まで全く使ってなかった脳の部分が動きだしているんじゃないかな?と思うのです。まるで新しい命が吹き込まれたような感覚を感じます。そうか!八十歳まで、こんな喜びを感じられるか

